

へえ「土塀」長い



金沢の武家屋敷跡で最も長い土塀。現在は金沢医療センターを囲う。金沢市下石引町で



「土塀は硬くて丈夫で、プロック塀よりも温かみがある」と平野さん。しかし、雪には弱い。武家屋敷跡などで見られる「こも掛け」は、金沢の冬の風物詩となっているが、土塀を雪から保護するための対策だ。雪が付着すると土がはがれたり、土に浸透した水分が氷結すると損傷したりするという。では、藩政期の土塀は金沢にどれほど残っているのだろうか。市役所で真鍮や文化財の保護などに関わる複数の課に問い合わせたが「把握していない」とのことだった。だが、手掛かりとなる資料があった。一九七三(昭和四十八)年に市教委が発行した「侍屋敷土塀の系譜と現況」。市が金沢経済大(現金沢星稜大)名誉教授の故田中喜男氏に依頼した調査の

雪に弱く保存困難

なごへ 長土塀地区

文獻だ。当時、藩政期の工法で造られた土塀は、市内に百七十七点(寺院や民家は除く)あったという。田中氏は「土塀は昭和四十八年現在では、四十年当時の三分の一が取り壊されている。毎日のように自然崩壊、縮小、破壊、廃棄されている現況の中では、おそらく数年をみないで市内からその姿を消すことも十分に予想される」(抜粋)と記している。四十三年前の記録では、長土塀の土塀は十二点。住所や形状、見取り図が記されているので、この冊子を持って現地へ行ったが、田中氏の「予言」の通り、ほぼ見当たらなかった。藩政期、長土塀には、加賀八家が家臣に地割りして住まわせた下屋敷などがあった。長土塀公民館の記念誌によると、地名の由来には諸説あり、もともと通称名として使われ、一八七一年(明治四)年以降に正式名称と



長土塀地区な資料として登場した。市は一九六三(昭和三十八)年の「三八豪雪」の翌年から、長町武家屋敷群区の土塀の修復に力を入れており、景観が守られてきた。一方で、近隣の長土塀までは及ばなかった。長土塀に「長い土塀」が残っていないなんて残念。肩を落としていると、長土塀公民館の女性主事から面白い話題を聞いた。「長町や芳斉の一部も含む長土塀地区に範囲を広げると、超雲寺の土塀が長いですよ」。寺北側の土塀は約五十六メートルに長く、こもが掛かって風情があった。最後に、金沢で最も長い土塀はどれほど長いのか。武家屋敷跡に限ると、答えは約二百五十メートル。金沢医療センターを囲う、加賀八家の「奥村家」の屋敷跡だ。前に立って武士の気持ちを想像してみた。その権威はいかほどだっただろう。思わず、「武者震い」をした。

中の不審物見える 半透明コーン開発

小松の会社、テロ対策などに

土木資材や安全管理用品などを手掛ける「イケガミ」(石川県小松市)は、テロ対策など防犯につなげるため、半透明の素材で



①新開発された半透明のコーン。内部に不審物があるかどうかを外部から確認できる。②同型のコーン。内部には発光ダイオード(LED)電球を取り付け、注文に応じた設計になっている。



不審物があるかどうかを外部から一目で確認できるようになっている。内部には発光ダイオード(LED)電球を取り付け、注文に応じた設計になっている。た色でイルミネーションのように光る。電力は外部に付けられたソーラーパネルでまかなわれ、環境に配慮した設計になっている。開発のきっかけは、昨年五月に小松市で開かれ、天皇、皇后両陛下が臨席された全国植樹祭。本番を控え、車列が通る道を社員ら

小松の那谷寺 「お身ぬぐい」

石川県小松市の那谷寺の本尊「十一面千手観音」のほこりを払う「お身ぬぐい」が二十六日あり、僧侶や檀家ら二十人が新年を前に本尊を丁寧に清めた。ヒノキの寄せ木造りに金箔を施した高さ七・八メートルの観音像の周りに足場を組み、はたきを持った僧侶らが傷つけぬよう慎重に顔や手などのほこりをぬぐい落とした。木崎馨山住職や檀家らはお経を上げながら新年への思いを一つにし、作業を見守った。



が清掃していた際、警察官が沿道でコーンを一つ一つ持ち上げ中をチェックしていたことから、確認作業の時間や労力を減らすと発想した。開発に携わった池上久貴専務(左)は「東京五輪に向け、スポーツなど国際的行事が増えるが、いろいろな場面で作られることで安全を支える商品になってほしい」と話している。(太田博泰)

この... かりの... は書い... し「い... 々々... ととき... つもの... 人間の... 透き... った娘... 私の手... マズい... うよう... 背骨を... に泣く... の気配...